

## 演題：「大学入試センター試験への素朴な疑問に答える

——— その到達点と今後の課題 ——— 」

講師：独立行政法人 大学入試センター 研究開発部 教授 林 篤裕氏  
(試験基盤設計研究開発部門)

### 1. はじめに

大学入試センター研究開発部の林でございます。こんにちは。皆さんがどういう関心をお持ちでここに来られたかあまりよく分っていないものですから、皆さんのご興味に合うかどうか気になっております。今日は90分という時間をいただきました。普通90分というところの大学の講義なのですが、今日は実は2つ考えたのです。盛りだくさんにするか、少しのことをゆっくり丁寧にしゃべるか、どちらにしようかと考えたのですが、この際だから詰め込みにしましょうと。詰め込みの度が過ぎるとかきたくないでもないのですが。しかも私は自分でも驚くほど早くしゃべるのです。分からない所は手を挙げるなり、早過ぎるなり、説明が下手だとか何でも言っていたら、その部分はその方がお解かりになるように説明をさせていただきます。教員ですから一応時間を守りたいと思っております。場合によっては、一部スキップせざるを得ないかもしれません。ご興味によってはそこだけ拡大して、他の所をゼロにすることも有り得ますので、その辺はご了解いただければと思っております。

私、初めて長野市にやってきました。学会で松本市には行ったことがあります。スキーで近くにきたこともあります。私は滑るのが大好きで、大学時代はアイスホッケー、たまにはスキーをやっておりました。大学入試センターの人間が滑るのが好きというのは不謹慎と言われますので、あんまり大きな声では言わない方が良いでしょう。他には、善光寺とか山もあり、今日は残念ながら山は見えないようですね。

[スライド番号 1]

私の資料のここにマークがあります。これを大きくすると、こうなっています。これは何のマークかというところと大学入試センターのマークです。どういうふうに読めますか。「DNC」と読むのです。大学入試センター(Daigaku Nyuushi Center)。英語とも日本語ともつかない変な名前でありまして、これ(大学入試センター要覧)、回覧資料で、後でお持ち帰りいただいて構いません。大学入試センターは英語では通じませんので、National Center for University Entrance Examinations が英語の名前です。海外では「NCUEE」という言い方をします。同じものです。我々のメールアドレスの DNC はそういうことになっています。配布は10面

ものが配られていると思います。それぞれに 6 枚入っていますから 60 枚のスライドが配布されています。既に私のスライドは 7 枚目になっていまして、皆さんのスライド番号とはずれます。皆さんのスライド番号は提示資料の左下の方を見ていただければ結構です。

[スライド番号 2]

まず私が何者かということ、センター研究開発部に属する教員、研究者でありまして、以前は大学に勤めておりました。今 3 つ目の職場です。専門は統計学・教育工学です。それ以外に入試センターにおりますので、調査等もしております。研究開発部で何をしているかということ、センター試験に限らない入試の研究をしている研究者であります。基本的に研究者でありまして、入試センターの作題者ではありません。研究者です。当日まで試験問題は見ません。誤解をしないで下さい。入試の研究をしている研究者で、統計学とか心理学とか。大学入試センターとしてどう考えるかと言われても残念ながら答えようがありません。研究者の良い所は自由にしゃべれるということです。組織を離れて私はこう思う、あなたはどう思うのですかと話をするのが私の立場ですから、研究者として「リスニングは、ちょっとねー」と言ったことは私も同意します。あれはこうだと同意したり反目したりします。それはセンターの公式見解とずれることがあってもお許しいただきたい。この点だけは 90 分間ご了解いただきたいと思います。

[スライド番号 3]

これが本日のアウトラインです。皆さんからの 8 つのご質問には最後にお答えします。ただ、そこにたどり着くまでの私の話で、答えが分かるようになると思います。センター試験、センター、研究開発部、よく間違える統計量、試験の中で使う統計量、その辺をお話しして最後に持っていこうと。これを後 80 分でやらないといけないということです。

## 2. 大学入試センター試験とは

[スライド番号 4]

センター試験の話は皆さん大体ご存じでしょう。平成 20 年、今年 1 月のセンター試験では 54 万人。実際に会場に来たのが 50 万人。92%~93%が、毎年の出席率です。全国 9,000 試験室でやっていて、利用大学は 621 大学、156 短大。後で図が出てまいります。大学生 1 学年 60 万人ですから、この位の学生が受けていると言う規模を知っていただければ相当な人数であることが分かります。ちなみに、我々のところには答案が約 350 万枚返ってまいります。それを OMR というマシンで読むのですが、それを 5 日間で読みます。土日で本試験を実施して、月から金曜日までの 5 日間で読みます。しかも 1 回ではありません。機械は間違えるものですから、2 回読みます。700 万枚を 5 日間で読むわけです。ですからあの 1 週間はすごい 1 週間です。あの風景は見る価値があります。必死で皆が 700 万枚の紙を間違いなく読もうという労力はお見せしたいのですが、セキュリティの問題もあり難しいよ

うです。OMR、14台が喧噪の中で稼働しています。ワンフロアで削岩機よりは小さいですが、相当な音をたてて回っております。

大学入試センター試験は平成2年に始まって、今20年ですから19回やっています。最初の頃はご存知だと思いますが、国立大学と公立大学、一部私立大学だけが使っていたのですが、最近は私立大学の体積が一番大きい。ちなみに私立大学570分の450ですから8割位の私立大学がお使いになっている。もちろん国立・公立は当然お使いになっている。最近は短大もお使いになりマンモスな試験になっています。この表は要覧の中に出てくるはずですが、図でなくて数字になっているかもしれません。

[スライド番号 5]

これは教育者であれば見たことがあると思われるグラフですが、小学校6年間の在学者数、中学校・高校の在学者数ということで、全部下がってきている、これが少子化です。例外が1つあります。大学です。人数がどんどん上がっている。子供が減っているにも関わらず、大学に入学している子供は増えている。ですから後で出てきますが、全入という状況が起こっているわけです。最近では一学年120万人位でありますから、60万人ということは2分の1。今年の統計では18歳の54%が大学に入学している。5月の文科省の統計で出てきています。大学の在学者数だけが増えているということになります。

[スライド番号 6]

ここに各国の進学率があります。横軸に高校への進学率、縦軸に大学への進学率。この図の左上にはポイントは出てきません。つまり高校を飛ばして大学に行く人はいないからです。例えばドイツは、中学から高校へ上がるのが8割、高校から大学に上がるのが3割位でしょうか。フランスも大体似ています。さて日本はどれでしょう。・・・(会場から一番上が韓国、次が日本、離れた点をイギリスと指摘)。すごいですね。その通りです。日本が一番ではないのです。日本は非常に高いのは事実です。98%だと思いますが、後でまた出てまいります。15歳のお子さんは、ほとんど高校へ上がってくるということです。2%だけ進学しませんけど。大学へは54%。実は、韓国は日本より高い。高校へは全部入り、大学へは8割が入ります。韓国の統計上の数字は104%。どうなっているのと聞くと、どうも2つ行っている、みたいですね。今年は3回韓国に調査に行ったのですが、大学の方にお聞きすると8割と言われます。丸めて8割だと思うのですが、75なのか84なのか、その辺は分からないのですが、8割とおっしゃいますので、8割にしました。国の統計上はここ(図の外側)にあります。実はそれぞれの国の統計の取り方が若干違いますので、ずれるのですね。日本と同じように取ってくれば良いのですが、日本が一番正しいかどうかもありますが、それぞれの国に事情がありますので、一概にその国の統計をそのまま用いると、例えばイギリスはもっと高くなるはずですが、うちの研究者にイギリス通が居りますが、彼は35%と言っておりますので、このようになっています。これは何のラインか分かりませ

んけど、社会が成熟して、少なくとも向こう(左下)が始点で、ここ(右上)が終点だということとは確かですよ。教育をする国力がなければここ(左下)になるわけです。国力が非常に豊かになってそこをどういうふうにとどって行くのかが、こういうラインであろうと思います。

[スライド番号 7]

日本はとにかく進学率が高い国となっています。今や 54%の進学率です。収容力という意味では 90%になっております。18 才人口が下がってきて、大学への入学者数が増えて、つまり 2 分の 1 以上の学生が入るということになるわけです。これは日経新聞の 7 月 31 日の記事ですが、私学の半分は定員割れを起こしている。いやな言い方ですが、大学を選ばなければ入れるということになってきた。質の低下が叫ばれるのも皆さんご存じのところかと思います。私、統計家ですから、この図で気になる所は、笑窪のようにくぼんでいる所です。1945 年と 1966 年です。第 2 次世界大戦と丙午です。アジア圏ではこの図は同じようになり、丙午は韓国でも中国でも同じようなことになります。

共通 1 次学力試験は昭和 54 年にスタートして、平成 2 年に大学入試センター試験に変わっている。私は共通 1 次の第 1 期生です。個人的な事情で 2 回目も受けましたが。この夏に東京のイベントに行って大学入試センターのライバルを見つけてしまいました。センターで実施した試験は合計で 30 回行なっていますが、今度の応募があると 31 回目です。同じように今年で 31 回目というイベントがあります。隅田川の花火大会です。隅田川の花火大会は今年 31 回目が終わったのです。隅田川花火大会のウェブには来年もよろしくと書いてあります。来年もやるつものようです。センター試験は 2 年前に公表というルールがありまして、センター試験は 32 回目までは実施予定です。そういう意味では隅田川の花火と来年までは何とか勝てるという状況になっているのです。2 年先までということを感じて欲しいのです。

隅田川の花火は非常に有名なのですが、31 回しかしていない？何か変ですよ？江戸時代の話ではないの？何故 31 回かという、途中「交通事情の悪化により開催されず」となっています。その前は「両国の川開き」と言って今よりも川下のお相撲さんの両国の所で、古くから開催されていたらしいので、大学入試センター試験がいくら対抗しようとしてもできるわけではないのですが、そういうふうなライバルもあります。

今回のため 1 つ付け加えたグラフなのですが、最近授業料が上がる、入学金が上がると言われて、どうなっているのかなと。私の頃は 10 万円弱の頃でしたけど、入学金がこの辺で、授業料がこんなに上がって、結構上がったなあと見たりしています。

### 3. 大学入試センターとは

[スライド番号 8]

今までは入試センター試験の話をしてきましたが、これからは入試センターの話をしていこ

うと思います。平成 20 年度版の要覧を持ってきました。センターがどういう組織なのかこの資料を見ていただければ解ります。

[スライド番号 9]

歴史であります、私は第 1 期生でしたがその 2 年前の 1977 年に設立されています。試行テストというものを行ってありました。共通 1 次を作るための試行試験は 2 年間行いました。業務としては 4 つ。皆さんが一番知っているのは試験の実施、採点。それは誰が作っているか、我々が作らなくてはいけない。成績を大学に提供している、これもご存知だと思います。3 つ目に実は研究があります。我々の担当部署です。それ以外に、進学のための情報提供、ハートシステムというのがあります。どこのエリアにどんな大学があるのか、どんな専門があるのか等を検索することができるシステムがあります。よろしければご利用ください。

[スライド番号 10, 11, 12]

先ほど西澤先生からご紹介いただいた組織図です。まず注目していただきたいのは、トップの所です。理事長を吉本と申します。彼の横に国公立大学とあります。これは何かということです。何故こうなっているかということです。センターなのでセンターだけの組織図にすれば良いと思われかもしれないのですが、センター法ではセンターは「大学と共同して試験を実施する」と書いてあります。大学入試センターが主導しているわけではなく、大学と共同で実施していることをまず 1 つ目にご理解いただかないといけません。

我々が学会等に行くと、大学の先生方から文句を言われることがあります、共同で行っていますので、このことを理解いただくと、私たちに文句言うのは、自分自身に文句言うのと一緒ですよと説明するわけです。入試センターはセンター試験を実務としては行っていますが、大学と共同で実施しているわけです。我々が勝手にできるものではありません。毎年 5 月に文科省から実施大綱というものが出ます。その中にも実施の趣旨と各大学における利用という形で役割分担がされているわけです。主従関係ではなく、共同で行っていることを一番皆様に知っていただきたい所です。組織図の一番上の所がこうなっているのはそういう意味を持って描いてあります。

#### 4. 研究開発部の業務

[スライド番号 13]

研究開発部の業務は、作題部隊ではありません。作題者に対してこういう仕事(上段)、大学の先生方とこういう仕事(中段)、その他業務としてこういう仕事(下段)をしています。図にある通りです。今日は丸印の付いたところを説明させていただきます。

[スライド番号 14]

平均、標準偏差、得点分布はイメージが湧くと思いますので後述するとして、連関表とは何でしょう。例えば世界史 B の平均点、日本史 B の平均点、これは何かというと全受験者の平均点、皆さんが新聞等でご覧になるのは全受験者の平均点を見ていることとなります。我々は生物 IB を受けた子の世界史 B の平均点、物理 IB の子の世界史 B の平均点を持っています。つまりグループを分解しているわけです。理科系科目、理系の学生は物理に集中していますが、そこでは社会科科目の平均点が低い。一方、数学の平均点は生物受験者より高い。我々は層を区切ってどのような振る舞いをしているかを見えています。万が一、この不等号が逆になっていると、何が起きているのだと、公表はしていませんが、何か変なことが起きているのではと調査のためのきっかけになるわけです。こういうチェックをするために、連関表を使っています。

[スライド番号 15, 16, 17]

次に分析図。試験を作る時、難しい試験、易しい試験と言いますが、少し勉強をしている子でも解ける問題、ちゃんと勉強しないと解けない問題と色々お作りになると思います。それを図にしたのがこれです。事例を簡単にするために英語にしましょう。英語はおよそ 50 万人が受けています。0 点から 200 点まで 50 万人がここ(X 軸側)に並んでいるわけです。合計得点の一番低い 10 万人がここ(左端)、次の 10 万人がここ(左から 2 番目)、次の 10 万人がここ(真ん中)、...とすれば、50 万人が合計得点の順に 10 万人ずつのスライスになります。例えばマス目の 3 の出来具合はどうだったかなと言えば、一番合計得点で悪かった子で 9 割弱、真ん中の 10 万人の出来具合はどうだったかなというと 9 割超えた、最後の成績の良い子達の出来はどうだったかなというと 100%、ということは、どの群にとっても易しかったということですね。つまりこの線がどこにあるかで難易が判るわけです。難しい問題だところなり(図 1 中央)、易しい問題だところなり(図 1 左側)なります。

[スライド番号 18, 19]

次の図(図 2 左側)は成績の悪かった子は 3 割行きません。真ん中の群の子は 6 割位、最上位の子は 9 割を超えています。例えば 4 のマス、設問 1 個で勉強量が分かるのです。識別できるということが判る。つまりこの設問 1 つ出すだけで、誤答している子達は勉強していない可能性が高いことが判るのです。先ほどは上下の話をしました。今度は傾きの話です。こちらの方は(図 2 右側)識別し難いわけです。この設問たとえば 6 番にしましょう。どのレベルの学生でもほどほどに解けてしまう。向こう(図 2 左側)は勉強量によって出来・不出来が一発で分かるということで、識別することができるわけです。

皆さんが学校でお作りになる試験は達成度試験ですから、識別する必要がないのかもしれませんが、入試の場合は競争試験ですから識別することが非常に求められているわけです。こういう(図 2 右側)問題ばかり出されると困るわけです。

[スライド番号 20, 21]

これまでの図は直線ですが、実際は直線ではありません。こういう(図 3)のが普通です。下位層を識別、つまり勉強していない子は大学へは遠慮してよ(図 3 左側)。しっかり勉強している子に入ってもらおうとしたら、こういう図(図 3 右側)の試験を出せば識別ができるわけです。部分的な識別をする図、こういう設問が入試にとっては比較的向いているということになります。我々はセンター試験 28 科目 1300 個位の設問について一個一個これを描いております。それぞれの科目の作題者にお返しし、検討資料として提供しております。

以上は正答についての話です。誤答も書き加えると有効です。正答の線は通常、右に行くに従って上がっていくわけですが、誤答の線は降りて行く。成績が良いと誤答は選択しませんので。先生方もおやりになると思いますが、ひっかけてありますね。少し勉強している子は間違っこちらを取るといふのがありますね。引っかけの選択肢がちゃんとひっかけてになっているかどうか、その場合には誤答の選択肢もこの図にお加えになる方がよろしかろうと思います。英語の最後の問題は 3 つ選べとあります。そうすると 3 つ正答なのですね。この図はたまたま 3 つ誤答が書かれていることになります。この分析図は非常にパワフルだと思います。試験問題を分析される場合には非常に有効かと思っておりますので、ご紹介しました。

この図の場合、足すとどの群でも 100%になる、つまり選択肢が 6 つあっても 8 つあっても、受験生は選択肢 3 か 1 が正解だと判っている。選択肢が 10 個あったとしても設問の正解は 3 か 1 だと。最下位群で誤答は 7 割弱でしょう。正答は 2 割強でしょう。足すと 90 何パーセントになるわけです。真ん中群で正答が 6 割強でしょう。誤答は 4 割弱でしょう。こっちも足すと 100 になっています。つまりどの群でも選択肢 3 か 1 が正答であると判っている。5 肢選択であろうが 10 肢選択であろうが受験生さんは 3 か 1 が正答だと判っている、どっちかなと悩んで選択肢がいくつあってもこれは 2 択の問題になっているのです。なお、予め申し上げておきますが、こういう設問は稀です。入試センターの設問の多くがこうなっているのかと思われると甚だ遺憾です。あっても年間に 1 個か 2 個位です。こんなにきれいに出てくることはめったにないですからご心配なく。

[スライド番号 22]

以上は設問の話でした。センター試験には大問という括りがあります。大問でも同じような図を描くことができます。大問の場合は、配点という重み付けがされています。設問は合ったか間違っかという 2 値反応ですが、大問は配点というウェイトが加わる。基本的には同じような図が描けます。例えば上位層を識別するのに有効な大問であったとか、これは大問 4 で配点 34 点、平均得点率が 57.91%で、選択率が 34.56%、大問 1 から全部描けば、一番易しかったのは大問 1 で、一番難しかったのは大問 4 だとかは、こういうように併置して描くとわかり易い。それは表示の仕方ですが。

以上が作題者への情報提供です。

[スライド番号 23]

次は大学の先生方との共同の仕事です。「合否入替り率」と言いますが、多分先生方は目の前に生徒さん達がいらっしゃいますから、センターでミスったら、2次試験頑張れよと、逆にセンターである程度の点を取ったら、普通の力を出して2次を取れと言いますよね。どこかで繰り越して入学しているわけで、入れ替わりはどうなっているのだろうと。

[スライド番号 24, 25, 26, 27, 28]

これ(図5)がその図でありまして、横軸に大学入試センター試験の点数、縦軸に2次試験の点数をプロットしてみると、受験者は楕円状の所に入ると思います。例えば定員100人の選抜単位であれば合計点で優秀な方から採っていくと、斜め45度の線で採って行って、この線より上側に100人来た所でストップとなる。この線より上に合格通知を出す。もし仮定の話ですが、センター試験だけで合格を出した場合、垂直に立った棒を左方向に移動させて行って100人になった所でストップです。2次試験も同様ですね。そうすると、a, b, c, dの色分けができるわけです。cはどうやっても入る子、bは1次試験の優位さで入った子、逆はdです。aは総合成績で入った子です。この中の比率がどうなっているのか、1次の優位性で入った子と、2次の優位性で入った子とどういうふうな比率で入っているかを取ったのが合否入替り率です。図は面積で考えるものではなく、体積です。恐竜の背中みたいになっているところをスライスして切っていきます。面積ではない点にご注意していただければと思います。

[スライド番号 29, 30]

例えば、倍率の違い、選抜性の高い選抜単位であればほとんどの子が落ちてしまう。逆に倍率が低くて、ほとんどの子が入ってしまうのはこうなります(図7)。合格ラインの違い、受験倍率の違いはこういう図で表すことができます。1次試験と2次試験の相関が強いと、楕円はぎゅっと押し込まれますから、つぶれた形になります(図6)。あと分散の違い(図8)。1次試験のバラツキが少なく2次試験が多いと、この楕円が立ってくるわけです。ここまでは1次試験と2次試験の成績を1対1の比率で配点した例を挙げてきましたので、斜め45度なのですが、傾斜配点している選抜単位では、1対1ではありませんので、このように寝てくる(図9)。この場合は2次試験に重みを置いています。色々と図の形は変わってきます。

ではどれが良い入試でしょうか。・・・どれが良い入試というのは、大学が決めることです。つまりどういう子を採用か。どういう子を採用たいかは入試で課せば良い。どの入試が良い悪いは一概には言えません。ただ1つ統計家としてコメントするならば、こういう(図6)入試はあまり好ましくないではありませんか、と言える。つまり1次試験の成績で2次試験の成績も判るのだから、2回も労力を払う必要が無い。つまり1次試験の成績を聞いたら、大体2次でこの位取れると判るなら、受験生さんに2回大学に出てきてと、言

わなくて良いわけですから。こういう入試はあまり格好良くはなからうという気が、私はします。ただそれは大学が決めることですから、どういう子を探りたいか。たまたまセンターと同じ出題になってしまって、同じ性能の学生が採れてしまうことが有り得るかもしれません。ただ、分析する必要はあるでしょう。良いか悪いか、来て欲しいか来て欲しくないか、それはこういう分析をしていただければ、お判りになるのではないのでしょうか。これを合否入替り率と申します。

[スライド番号 31]

今は、1次試験、2次試験という言い方をしたのですが、試験は1次と2次と言う分け方だけではありません。例えば物理とそれ以外、地歴とそれ以外とか、2群であれば良い。その図を描けば物理の高得点で入れた子とか、地歴のロースコアで落ちた子とか、2群を作れば良い話です。1次試験、2次試験だけではないわけで、個々の受験生の特性を追跡する時には、試験を2群に分けて、1次試験、2次試験という括りは関係ないわけですから、その中から一つだけを取り出して分析されれば合格者の特性がお解りいただけると思います。そういう意味で、この図は便利だと思っています。

[スライド番号 32, 33]

次に「得点調整」ですが、概要だけ申しあげておきます。平均点に一定以上の差が生じた場合、それが試験問題の難易差に基づくと認められた時に、ここに掲載した科目については得点を調整します。20点以上の差を15点程度に縮小します。この手法の面白いところは、0点は0点に、100点は100点に変換されますので、平成元年に行った変換とは違います。今行っているのは、分位点差縮小法、RPM (Reduced Percentile Method)と言います。受験案内にも載っています。

実際平成10年に一回だけ発動しました。経緯ですが、平成9年の数学②で21.69点の平均点差が出ました。数学ⅡBと旧数学Ⅱの間です。この年は移行期でした。旧課程の子は旧課程と新課程から選べます。新課程の子は新課程しか選べません。22点近い点差が出たので、新聞タイトルは「浪人いじめ」と出ました。旧課程の子はどちらでも選べた。試験問題を2つの中から選べますよと言った時に、旧課程だから旧課程を選ぶというのは、作戦としては上等ではないですよ。両方見て選ぶのです。成績が良い子は、どちらが易しいか判ったわけです。旧課程の子も新課程に流れて行ったわけです。識別のできない学生さんは旧課程を選択したのです。ですから本来の難易差以上に点差が開いて22点付いてしまったのです。だから浪人いじめという表現が正しいかどうかは考えていただきたい。本当に浪人いじめでしょうか。数学の問題の識別ができない子供達がわざわざ難しい問題を選んだ時にいじめと言うかどうか。そこを注意していただきたいのです。しかし、このような状況になってセンターの所長が国会召致にまでなりました。実は、私、平成8年にセンターに就職しまして、平成9年のセンター試験が1年目で、えらいところに就職した

と思ったことを覚えています。

で、いずれにしてもこれではいけないということで、後で申し上げる方法を開発しました。平成 10 年から使おうとしたら、早速平成 10 年に出ました。世界史、日本史、地理 B で平均点差が 20.90 点で、さっき言った 20 点を超えてしまいました。そこで平均点差を 15.05 点に変換いたしました。開発後 11 回で 1 回だけ発動しました。

[スライド番号 34]

この手法はどうなっているかというつまり難しい問題と易しい問題の得点分布がこうなっています。頻度だと比較しようがないので、累積頻度の割合、積み上げていった割合にすると、スタートが 0 点から 100 点迄を図にするとこうなる(図 12)。ナメクジがはったような図になるわけで、こっち(太い線。左側。)が難しく平均点が下の方、これ(細い線。右側。)は易しい方ということになります。そこで、難しい側の太線をどこでも同じ割合で右方向に押す。太線を一樣にこの比の割合で押す。15 点程度の平均点差になる所まで押したのが点線で、これを調整後の線に使いましょうということになります。例えば元々 40 点だった子は、このように辿って 50 点に変換しましょう、これが変換表というものです。先ほど 15 点程度と言いました。試験の成績は整数で小数点以下が使えない。少し押すと 14 点になったり、少し引くと 16 点になってしまったりします。15 点程度と言っているのは、成績は整数でしか表現できないから起こることです。平成 10 年の例でも 15.05 点になっていましたが、イグザクトに 15.00 点にはならないことはご理解いただけると思います。

[スライド番号 35]

その得点調整ですが、作業に必要なのは各科目の得点分布と、いくらに縮めるかを決めてもらえば、変換後の平均点差は 0 点でも 30 点でもしようと思えばいくらにでもできます。

最近大学からの問い合わせも多いのですが、なんでもかんでも得点調整ができるかという、そうは行かないように思います。例えば物理の受験者が 4 人しかいないのですが、どうしましょうとか。そのようなことを言われても分布にもならないのです。受験要項に書いてない場合は、してはいけませんと諭す係りになったりもしています。受験者数が少ない場合や、英数国理社、何でも良いから 1 科目取ってきなさいという、そんなものの平均点を合わせてどうするの、科目をまたいでやって良いのかどうかは、大学で考えていただかないといけないので、その辺は議論が色々あるところだと思います。

[スライド番号 36, 37]

と言うことで、中間まとめであります。研究開発部は、問題を作っている人、もしくは大学の先生を支援したり、得点調整をしたりということをする部隊であります。作題者ではありません。来年の問題を聞かれても分かりません。作っているものは情報提供の元ネタを作っている。私達は解析者で、それを使う人、もしくは作題者達と一緒に仕事をして、

翌年以降に出題される作題の支援や選抜方法の検討・改善のための仕事をしている部隊であることをご理解いただければと思います。こういう仕事のことを入試研究と言います。国内唯一の機関でありまして、仲間がおりません。細々と行っております。内容としては統計学・心理学の人間がいて、勿論、他にもいますけど、統計学的な仕事をしている部隊です。

ここまでで何か質問はございませんか？

【質問】何人位いますか？

【回答】15人で仕事をしています。同業者が少なく、なかなか仲間が広がらないです。

【質問】得点調整とか各大学から電話があった場合、受け付ける人は決まっていますか？

【回答】決まっていません。私の所に事務から出て下さいと依頼されることがあります。最近は少なくなりました。2、3年前は結構ありました。試験を実施して受験者が4人なのですけど、とか。モラルのある大学は夏に連絡して来られます。今後こういうことがあり得るので、教えて欲しいということで、3人位のグループで来られて情報収集して帰られました。そういう大学は良心的と思うわけです。

## 5. 身近な統計量とその解釈

[スライド番号 38]

先ほどの平均と得点分布ですが、どの程度ご理解いただけているのでしょうか。身近な統計量とその解釈に移りましょう。身近だと言って解っているのかどうか。相関係数、この用語を知らない方も居られないでしょう。これらが意味するものは何なのでしょう。

[スライド番号 39, 40, 41]

手始めに「平均」って何なのでしょう。中間、真ん中、大体の目安、いろいろな言い方ができますが、本当なのでしょう。大学入試センター試験の生データは出せないのですが、法科大学院適性試験のデータはホームページにも載っていますので、出せます。同じものだと思っていただいて結構ですが、今年平均点は57点でした。一方、一世帯当たりの貯蓄額平均は1,722万円です。どちらも平均です。どのようなイメージをお持ちになるのでしょうか。

平成20年度法科大学院適性試験の11,825人の得点分布はこうなっています。57点が平均点ですから、こうなっています(スライド番号40)。他にも分布を示す指標があります。

「最頻値」や「中位値」ですね。最頻値はモードとも言います。一番頻度が高いところですね。「中位値」はこちら(左側)から数えて50%番目、向こう(右側)から数えても50%番目という値です。今回は全部57点近くにありますが、たまたまです。別に狙ってこれを出しているのではなくて、毎年このようになります。

問題はこちらです、1,722 万円(スライド番号 41)。新聞にも載っていました。57 点の平均値はフンフンとうなずける。しかし、1,700 万はなぜフンフンと言えないのでしょうか。これは計算ミスではありません。実は、上位が引っ張っているからこうなる。先ほど 2 つの指標がありました、中位値と最頻値はここになるわけです。平均値未満の所に 66%居る。朝食時にこのことを報道した新聞を読むと、3 分の 2 のご家庭はご飯がまずくなってしまうわけです。でも、これも「平均値」なんです。平均値なのに 57 点は良くて、1,700 万は何故笑えるか。

皆さんは、値を取ってきてフンフンというけれど、皆さんに是非覚えて欲しいのは、平均値は代表値の一つでしかないわけです。分布の形が判って初めて平均の意味があるわけです。にもかかわらず、皆さんは平均値だけで、今年は高かった、今年は低かったとおっしゃる。おかしいのです。皆さんが平均値を学生さんに提示するときは、一緒に分布図も付けましょう。今期の物理 I は 57 点だったけど、分布図を付けて、フンフンと言って来る学生さんを大学に送っていただければと思っております。偏り方の違いで平均値は非常に動くわけです。そういう特性をご存知であって、平均値をお使いになっていただければと思うわけです。非対称の分布の場合は非常に紛らわしい。最頻値は 200 万未満だったと思いますが、1,000 万が中位値。図が無くとも 3 つの指標を示して欲しいわけです。1 つだけを使って、図を出さずに平均が 1,700 万と言われると、多くの人が残念がりますね。ですから、「平均点差が 20 点を超えた」とか、平均点がどうのとか、平均値を比較することはどういう意味か考えていただかないと困るわけです。平均点差が 20 点超えたから 15 点差に縮めるとか話があるのですが、どうなっているのでしょうか。是非皆さんも意識して欲しいと思っています。これが 1 つ目です。

[スライド番号 42, 43]

2 つ目は「相関係数」です。最近これを就学援助率と絡めて語る方が居られて困っています。ここに示した学力テストは東京都の例です。就学援助率の定義は先生方ですのでご存知だと思いますが、所得の多くないご家庭には行政から支援を受けられるということで、支援率が高い区は、経済的に支援をしなくてはならない家庭が多い。平たく言うとプアーな区であると。支援率が低いと言うことはリッチなご家庭が多く住んでいる区ということになるわけです。23 区のリッチ・プアー(横軸)と小学 5 年生の国語の平均点(縦軸)を図に描くと、こういうふうになる。相関係数を取ると  $-0.89$  になる。中 2 の英語でも  $-0.79$  になると。これをとらえて「格差社会」だおっしゃる。新聞、その他で非常に有名になった単語ですが、果たしてそうなのでしょうか。

残念ながら 23 区のデータをもらえないので、シミュレーションをしてみました。23 の群で、本当は区によって人口も違うのですが、ざっくり 1,000 人ずつ生徒さんがいらっしゃって、それぞれ 23 のグループの乱数を発生させて、図を描いてみました。ここに 23 の区が並んでおりまして、乱数を発生させたわけです。赤い点々が平均値、乱数発生元の所で

して、スーと薄く下がっています。援助率が上がってくると平均点が下がるように元々してあります。モデルは下がるような図になっていて乱数を発生させているわけです。23,000 サンプルのデータが載っていて、その相関というのは $-0.058$ なのです。これは普通相関があるとは言いません。相関係数は $-1$ から $1$ までの数値、 $0$ が無相関です。この数値をとって相関があるという人はいない。それぞれ23群の平均を取ろうとしたらどうなるかという、こうなります( $-0.88$ )。つまり全サンプルの相関は無相関なのに、平均値の相関を取ると、 $-0.88$ になるのです。

我々はどちらの相関が知りたいのでしょうか。平均値の相関を取りたいのでしょうか、子供達の相関を取りたいのでしょうか。もうお気づきだと思いますが、平均値の相関を取るとそうなるに決まっていますね。元々真ん中を取ってきておいて、これをして、格差社会だとおっしゃる人が居られるのですが、それはおかしなデータの使い方ですよ、と。つまり、我々は23,000人の相関係数を取りたいにも関わらず、23ポイントの相関を取って格差社会だと力説されるのは、あなた、統計を知らないことですよ、と。少なくともこのデータでは言えません。これはどういう意味で何のために描いているのか、厳しく言うと恣意的に描いておられるんでしょ?と言いたい。何かの目的のためにこの図を描いておられませんかと言いたい。このような使い方は止めていただきたい。このデータでは格差社会とは言えないと思います。他で言えるかどうか知りませんが。格差社会だとおっしゃるのでしたら、他のデータで説明していただきたい。統計の使い方のお話です。

[スライド番号 44]

そこで、一つ表示の仕方をご紹介します。去年も今年も学力調査を実施しました。今年のデータは8月29日に出てきて、2学期に間に合うとか間に合わないとか。これは今年の新聞です。120万人、2学年で多額の費用をかけて悉皆調査をしました。これは10月の朝日新聞ですが、「ばらつき」が大だと。図が出ていますが、これ箱髭図と申しまして、このライン(箱の中側の線)が先ほどの中位値であります。この箱の部分に全体の50%の人が入るといふ図であります。こちら(左側)は援助率が低い、もしくは在籍していない、こちら(右側)は在籍率が高い、5割を超えています。こう取ると中位値も右に行くに従って確かに下がっています。中位値で話をすると、先ほどのスライドと同じような結論を叫ぶ人が出てくる。注目して欲しいのは「ばらつき」なのです。これを見ると両側、援助率が低い所と高い所のばらつきが大きいわけです。真ん中は比較的小さいのですが、両端は色々な生徒さんがいらっしゃるといふこと。

平均で物を見るのは怖いという話を先ほどしました、相関を取るのも怖いのだと話をしました。是非皆さんは分布、形を見て欲しい。そのためには、この箱髭図はばらつきを見るのに有効です。何でも平均を取りましょう、相関を取りましょうということは止めていただきたい。統計家としてはそれを言いたい。統計の誤用が蔓延していて、いかにももっともらしく表通りを歩かれるわけですが、本当のデータがどうなっているか皆さんには

ちゃんとキャッチして欲しい。身近で知っている統計量でも、実は結構おもしろいでしょ。意外と注意が必要で、安易に使って欲しくないのです。数値が出た出たと嬉しがって欲しくもない。数値の裏には何か現象があるはずですから、そこまで汲み取って、次のアクションを起こして欲しい。そのためには経験をしていただければと思っていますし、是非誤用は避けていただければとも思っています。

## 6. ご質問への回答

[スライド番号 45]

この後は、先生方からのご質問に答えていきたいと思います。前準備として、大学入試センターは、独立行政法人で、センター法に則った業務をしている機関で、試験は共同で実施していて、高等学校の基礎的な学力を測る試験なのです。試験の評価方法はたくさんありましたね。そういうことを理解していただければ、西澤先生からいただいた質問に、既に皆さんが答えられるものが半分位はあるはずだと思っています。ご質問は 8 つありました。(囲みの中がご質問。原文のまま。)

[スライド番号 46]

①センター試験の大きな制度改革並びに内容レベルの変更等は大胆にできるのでしょうか? もしできるとしたら、その手順はどのようなものになるのでしょうか?

申し上げた通り、我々が決められるものでは当然ないわけでありまして、大胆にしましたら高校の先生方も迷惑をこうむられるわけですから、そう簡単にはできないでしょうね。先ほど花火の話題の所で出てきましたが、2年先、大きい改革の場合は3年先の場合もあるのですが、多くは2年先に改革の道を示していますから、そう簡単にできるものではないでしょう。どこで決定するのかは、非常に難しくなりました。昔はどちらも文科省の機関でありましたが、今は大学もセンター共に独立行政法人化して、基本的に拘束力が無くなり、それでは文科省が決められるのかというと、それも独立しています。国立大学協会も、それぞれの団体が独立しているのをどうやってまとめるのかという話になりますし、センターは共同で実施している機関なので決められるわけがない。非常に困ったことになっております。

[スライド番号 47, 48]

もっと困ったことが皆さんの気づかないところで進んでいます。試験問題は誰がどこで作っているの、ということ。私は作っていないと公言しましたが、作題のグループが先ほどの組織図の中段にあります。450人位の先生方を大学から派遣していただいて作っております。今までは大学で経験のある方を派遣してくださいという言い方をしていました。大学で経験を積まれた方が我々の所で力を発揮してくださるということだったので、

その多くの方々は、昔の教養部に属していました。ご存じの通り、現在教養部があるのは、東大と東京医科歯科大、国立だとこれだけです。基本的に教養部は解体しました。作題グループの供給機関であった教養部が今ありません。大学で作題を経験した人が少なくなってきた。大学で育成しているかという、そんな暇はないと言われます。加えて、作題者の供出も遠慮される、もしくはセンターでお金をもらって来いとまで言われる。共同実施が理解されていない。でも高校の先生方からは良い問題を作るとプレッシャーがかかる。作題者が育成されていないのに。ややもするとセンターが養成機関になっている。作ったことがない人を2年間かけて養成して大学に返している。センターは作題者の養成機関にさえ成りつつあります。これは危機的問題です。今までは大学から経験の豊富な先生に頼ってもらっていて、高校生に対して良い問題を供給していたのに、中々粒が揃わなくなってきて、センターで育成している感もある。どうしたら良いのでしょうか、シビアな問題です。

大学入試センター試験、大学の入学試験は、高校教育の目標ではないはずですね。ここは同意していただけたらと思います。ただ、よく「これセンターに出るから勉強しておけ」というようなことをおっしゃって、教育の下支え的な要素にも使われている。これ、私の思い上がりかもしれませんが、良質な問題の提供機関であるべきなのに、大学から支援を得られなくなりつつあり、反対に大学から頼られるようになってきた。2次試験の問題も、大学院の問題も作ってくれないかというように大学からの期待感はかなり大きい。恐ろしいくらいです。その仕事も重荷になってきているので、どうしたら良いのかというところ。現状がこうなっているのです。

[スライド番号 49, 50]

#### ②過去問の再利用

- ・作問についてほぼ限界に来ているため、このような手立てを利用するのかどうか。
- ・これをどの程度実施する計画なのか。
- ・現行の教科書教材とかぶるような事態は起こらないのか。
- ・このために受験生の過去問演習の重要度が変わると思われるが、この辺りの議論はあったのか。

何故「過去問の再利用」という表現になっているのですか？これを質問された方は？

プレス発表ではこうなっています。タイトルは「大学入試センター試験における素材文の取り扱いについて」となっています。素材文には限りがあって、色々な所で出題されているから重複が有り得るため、素材文および教科書に掲載された文章は使うことがありますよと書いてあります。この文章の中に過去問と言う単語はどこにもありません。過去は出てきますが、過去問はないのです。素材文となっています。にもかかわらず、多くの方が過去問とおっしゃる。朝日新聞が良い解説を出してくれました。ただタイトルが気に入る

わない。「過去問が出るの?」。プレス発表のどこが過去問なのでしょう。素材の文章を再び使うことが有り得るということです。タイトルで誘っておいて、実は違うという記事になっている。同じ内容で出題されるわけではないと書いてくださっているのです。過去問とは重複がないかどうか点検しているわけですし、素材分の再利用は許してください。平たく言うと、名文とか傑作を出せないということをどう考えるのかということです。日本人として知っておくべき名文・傑作が日本にはあるのですが、それを出すと重複や既出とか言われるのですが、そういうことは止めてください。重箱の隅をつつくようなことは止めてください。素材文は流用することがありますよ、と。教科書とか試験問題のデータベースは持っていますから、チェックはしますが、予備校の問題とバッティングしているから有利不利なんて、厳しい言い方をすれば、些末なことだと思うのです。子供を教育するためには、本来なら名文を朗々と言えることが格好良いのだと私は思います。ですので、過去問という用語を使うのはあまり上品ではないように思います。河合塾の調べでは、7割の先生方が肯定的に見てくださっているようです。そういう意味で「素材文」です。多分に過去問に引っ張られている方もいらっしゃるのかもしれませんが、是非そこを理解していただいて、それでも言いたいことがあるなら言っていただいて結構です。

[スライド番号 51]

③ 受験料の事前登録制

- ・事実上の当日解答科目変更の廃止なのか。
- ・予め受験者数が確定することで、何らかの変更点（例えば問題難易度の事前調整など）があるのか。

これは受験料ではなく、「受験教科」と理解してよろしいですか? (はい、とのお答え)。

これも先ほどのプレス発表の下側に出てまいります。必要な問題冊子を準備するために数をカウントしなければいけない。試験科目は従来通り、会場で選んでもらいますよと書いてあります。問題冊子が余ったり、足りなくなったりすることがあります。しかし、冊子が足りないと困るわけです。実は長崎で起こったことがあります。前年に、とある所から無駄をしていると指摘され、印刷部数を絞ったら足りなくなったのです。その時は試験を停止して長崎の本部から送って、事なきを得ています。足りなくなることと余ること、どちらが教育的に良いか考えてください。つまりエコなのです。事前に受ける科目を教えてくださいと。冊子が足りなくなるのは社会上問題が多いので。試験の科目は、当日好きに選択して下さいということです。目的はエコです。最近の標語です。

[スライド番号 52, 53]

④得点調整

- ・最も受験生に不満が大きいのは、地歴公民科目・理科科目における平均点のバラツキではないでしょうか。そもそも 15 点差という調整対象の根拠は何か。(いくらなんでも 15 点は大きすぎるのではないのでしょうか)
- ・平均点を揃える努力をどの程度しているのか。

色々な委員会で予想はしているのです。高校の先生も入ってもらって、予想しているのですが、残念ながらこうなってしまう。15 点程度は起こりうる平均点差でありまして、これ平成 10 年からの平成 20 年までの得点調整対象科目の平均点で、例えばここ(平成 20 年)で、世界史 B が 58.98 点、日本史 B が 64.27 点、地理 B が 66.36 点でした。それぞれ平均点差が出ていますが、この年の一番平均点差が開いたのは、世界史 B と地理 B の間の 7.38 点でした。赤丸の付いている部分はその年の最大得点差になっています。これだと見にくいのでグラフを描きました(スライド番号 53)。先ほど言ったのは地歴でしたから、7.38 点でこうなっています。平成 10 年から 20 年まで 11 年間を描いてみるとこういうふうになります。見ていただくと 15 点程度はどうしても起こるのですね。本当はゼロを目指しているのですがこうなるのです。ありがとうございます、皆さんのうなずきは嬉しいですね。「いくらなんでも 15 点」とご質問いただいた方に是非お聞きしたいのですが、何点なら良いのでしょうか。

しかし、それは何点とご呈示いただいても、大きな問題ではないのです。むしろ、こちらから質問したいのは、その点差をどうやれば実現できるか。知恵をお貸ししたいわけですね。是非、ご提供いただければと思います。「いくらなんでも」は言い掛かりではないかとも思います。これを書かれた方はここで反論をいただければと思います。

[スライド番号 54, 55]

⑤リスニングについて

- ・リスニング 50 点が入ったために、英語の 250 点の処理の仕方に各団体の統計処理でバラツキが生じている。予備校などは、250 点を 200 点換算してトータルで 900 点で得点率を出しているが、各県の教育委員会ではそのような処理は統一されていない。リスニング点を、使う大学と使わない大学に合わせての方式でしょうが、これだけのコストと労力をかけているのだから、リスニングを必修にして 180 点 20 点、併せて英語を 200 点とした方が合理的なのではないでしょうか。
- ・素朴に思うのですが、IC プレーヤーは独占禁止法に引っかかるのではないのでしょうか。

点数の使い方は、共同実施で相手の大学が決めることなのです。入試センターが何点にしようが、大学側がこうすると言えどもどうぞと言うしかないわけで、センター側からプレッ

シャーをかけて、50点はだめだということは有り得ないわけです。合意の下にやっていて、うちは傾斜配点をしますから、0点にしますよ、もしくは100点にしますよという大学があっても、どうぞおやり下さいと言う他はない。大学入試センターに言われてもという感じです。共同実施という言葉でほとんどこの質問は片付くと思います。

後段の、独禁法に抵触とはどういう意味でしょうか。ICプレーが独禁法に引っかかるというのはどういう意味でお書きになっているのでしょうか。いや、このご質問の意味が本当に解らないのです。・・・。

競争で作るということですか？一つの会社だけで作らざるを得ないのではと思います。つまり機密を守っていただかないといけないので、有名な会社10社位にチップ持って来てくださると納入してもらった時に、その中の一つの会社から漏洩があった場合困るわけがあります。秘密の保持とのトレードオフだと思うのです。秘密の保持に関して多数の会社に依頼するのはいかがなものかと思うのですが、1社独占という意味でおっしゃっているのでしょうか。1社独占以外にどのような方法があるのでしょうか。教えていただければと思います。このフロアーに質問して下さった方が居られるのか居られないのか判りませんが、ご質問の意味が分からないので、的確なお答えのしようがありません。

[スライド番号 56]

⑥ 4 択問題について

・過去の事例上、選択肢の中に正答が2つあるケースが一番問題になっています。このチェック体制はどうなっているのでしょうか。

センター試験の最近11年間の資料を調べると、3年ありました。日本史A、政治・経済、世界史Aです。これはごめんなさいと言うほかないでしょうね。色々な部会で、度重なるチェックを行っていますが、それでも抜けてしまっているようです。今後も気をつけて行きますが、簡単には、スママセンと言うほかないです。

[スライド番号 57]

⑦ センター試験の傾向はどのようにして決めているのでしょうか。各科目ごとに教えていただけるものなら参考になります。

これも答えようがないのです。学習指導要領、教科書に沿った内容で出しています。特定の教科書に偏るとまずいので、教科書もまんべんなく、指導要領から逸脱せずにやっております。作題部会が方針を決めていますので、我々には判りません。

皆さんにはセンセーショナルかもしれませんが、大学入試は決して指導要領に則る必要はありません。高校入試をお作りになるから解っておられると思いますが、入試は、その学校に入学して教育に付いてこられる体力のある人を選ぶために試験をやっているはずで

すから、指導要領との関係は厳しい言い方をすればどうでもよくて、我が校に入って教育できるかどうかみるのが入学試験のはずです。それが指導要領にあるかないかは関知しないと、皆さん理解されていますよね。しかし、大学入試センター試験の場合、これが非常に厳しい制約になっています。高校の学習達成度を見る試験ですから、ある程度の檻があるのはやむを得ないのでしょう。しかし、一般の入試というものを考えた場合は、我が校に入って来た時、教育できるかどうかをみるのが本来の入試の目的であって、何かの柵の中でというのは、本当は違うのかなと思います。

[スライド番号 58]

⑧ 作問の時に使う参考資料についても教えていただけるのでしょうか。

色々でしょうね。教科書、辞書かな。我々にも判りません。

ところで、大体、それらを知ってどうされるのでしょうか。素朴な疑問ですが、聞いてどうされるのでしょうか。この資料も全部ウェブに載っています。今日の話も秘密のことは一つもありません。オープンになっている事だけを話しています。どこかの方だけが得をしようと言うような話はしませんし、できません。

## 7. 私からの質問とまとめ

[スライド番号 59]

皆さんから質問がありましたので、私からも質問をしたいと思います。入試が多様、教育が多様となっている。良いのでしょうか。そろそろ収束しませんか。入試科目は少ない方が良いと一時期言われていましたが、今は5教科7科目。どちらが良いのでしょうか。大学入試の話をしてきましたが、皆さんは高校入試をされていますね。多様化された「高校入試」は良いのでしょうか。中学段階で多様ということが有りなのでしょう。高校教育もしくは高等教育を含めて、現実的な理想型とは何なのでしょう。お金は無尽蔵にありませんので、実現可能な理想論とはどうなっているのでしょうか。もしくは、高校と大学は学生のやり取り、高大接続をやっているわけですが、どういうふうになれば日本国を高いステージに持って行けるのでしょうか。是非考えていただければと思っています。

[スライド番号 60]

ご期待に副えたかどうかは分かりませんが、ほんの少しでも副えたら嬉しいです。皆さんのご検討の参考にしていただければ幸いです。皆さんに是非考えていただきたい。センター試験は共同実施です。我々があの方法で行うとか言っておりません。センターが変われば日本の教育も変わるというのは誤解も甚だしい。子供が行き来するわけです。子供達をどういうふうを受け渡せば良いか是非考えませんか、と言うのが私の本心です。その検討資料にしていただければと思っています。私の資料は、この URL

(<http://peter.rd.dnc.ac.jp/ice/haifu/#Nagano0809>) にアクセスしていただければ見るができます。

大学入試センターは非常に桜が綺麗です。3月の下旬、東京は4月より前に咲いてしましますが、来ていただければ見るができます。渋谷から2つめの駒場東大前にありますので、もしよろしければいらっしゃって下さい。

ご静聴、どうもありがとうございました。

## 8. 質疑応答

### 【質問 A1】

リスニングの件について書いたのですが、先生の話はよく分かるのですが、リスニングが入った時に、200点に50点を入れたわけですよね。それを各大学で使って良いというふうな意味では、先生の説明は解ったのですが、実際センター試験が高校教育に与える影響は、制度上大学でどう使うかということではなくて、まさに点数が各県で比較されて、一種の社会的な評価の数字に使われているので、そこまで慎重に考えないと、点数のことは一種の社会問題なので、数字の一人歩きが起こっている。実際、長野県の話なのですが、センター試験の終わった次の日に高校生を集めて、自己採点して代ゼミと河合塾と進研に報告をします。その数字と県教委の求めている数字のシートが違うものですから、それがこの質問なのです。リスニングが入っているシートと、入っていないシートと。そういうふうに使われている数字だから、分り易くして欲しい。それをどう工夫するのかを聞いてみたかった。例えば、リスニングを20点にして英語を180点にすることはできないということでしょうね。

### 【回答 A1】

できないでしょうね。逆に3社と県教委に同じシートを使いませんかと提案された方が早いと思います。そもそも、何故3社で違うのでしょうか。元々、出てきた数字を各社が計算してくれば良いのではないのでしょうか。何故、先生方が変換して差し上げないといけないのでしょうか。先生方の仕事ではないような気がします。

リスニングを何点にするかは議論があったのだと思いますよ。だから50点が良いのか20点が良いのか。20点だと10分の1ですよ。それで良いのかと。今は25%で50点になっていますね。

### 【質問 A2】

進路指導の業界では、900点満点でものを考えるのですが、一々その中にリスニング入っているの、入っていないのと、ずーと言い続けているのでこんな質問になってしまいました。

**【回答 A2】**

大学生からも聞かれるのですが、900点満点の何点ですかと。我々は900点の意味が解りません。我々は9コマ行っています。28科目行っています。どれとどれを足して900点かは関知しようがないのです。900点満点の何点ですかと言われて、フーンと。本当に解りません。その上に、換算まで行くと、へーと言うしかありません。

**【質問 B】**

作題体制の危機について大変参考になりました(スライド番号 47)。1年目から問題を作るわけではないのですか。

**【回答 B】**

本来はもちろん作っているはずですよ。部会に入っていないから、運営の仕方は正確には知りません。公表されていることは450人で2年です。半数改選なのです。そうしないと継承できませんので。2年で半数改選にすると技術の継承ができるわけです。そういうルールで30年間行ってきたと聞いています。1年目の委員は先輩委員がいますので、そこである程度は技術を習得するのだと思います。作題をしていないわけではありません、と思いますが。翌年は先輩委員になってしまいますから、切迫しています。翌年は後輩が入って来てリードして、しかもきちんとした設問を作らないと社会で問題になるわけですから、1年目からフルスロットルで作題してくださっていると思います。

作題体制の脆弱性の話は私はあちこちで何回も話しています。我々としても悠長に構えていられない問題です。教養部の解体は賛否両論あって、入試ということに関して言うとマイナスの方が多いような気がします。しかも大学が育成をしていないというのは大学の責務として問題であろうとも思っています。

**【質問 C1】**

私大の利用は、大学間競争の中で、大学入試に関わるコストを軽減するため、大学入試センター試験に参加する大学がどんどん増えているように思える。作題をセンターに委託したから、作題する先生方の所属していた教養部も要らなくなったのではないか。総じてセンター試験利用から抜け出ることができなくなっているということではないのか。

**【回答 C1】**

一つだけ訂正しますと、私立大学は独自入試を山のようになっています。センター試験をその一つに使っているだけで、独自入試を作る体力がないわけではありません。もっとも、相当の数の入試問題を作っているのだから、外から見ていると、相当疲弊しているだろうなという感じはいたします。作る体力がなくなった、お手軽だからというよりは、その一つに加えられたというだけの話で、私立大学は相当頑張っておられる。予備校に外注してい

る所があるやに聞いてはいますけれども、安易に外注しているというのも可愛そうな非難だと私は思っています。片手で足りないだけの問題数をあの短期間に出題しないといけなし、それも、ある程度勾配をつけて、つまり識別力のある問題を作らないといけないので、相当お辛いでしょねと言う感想を持っております。

**【質問 C2】**

多様な入試方法で一年中入試をやっていますね。

**【回答 C2】**

今は四大の話をしていますが、大学院、留学生、帰国子女、9月入試、AOと推薦もありますから。今我々は4月入学の話をしてはいますが、実はカレンダー全周が入試になっております。大学が単に努力をしていないというのは、少し当たらないのではと思えますけれど。そういうふうに見え兼ねないのも事実でしょうし、教養部の解体も事実ですから。

**【質問 D1】**

得点結果が5月に返ってきますが、もっと早く、できればその週の内にできないでしょうか。

**【回答 D1】**

その質問はよくいただきます。資料の通り、700万枚のマークシートを5日間で読むと申し上げました。そのあと追再試験もありますので、翌週も入っています。実はこれ、機械が全部読めるわけではありません。この機械で読めないシートが出てきます。典型的なのは鼻血とか、嘔吐等です。相当緊張されていますので、尋常ではない精神状態でされている学生さんが少なくなく、その補正をしていると、2月の最初の木曜日位にデータが揃います。それから大学に対してデータの提供が始まります。ですので、その週に返すのは不可能ですね。既に私の回答はご理解いただけていると思うのですが、我々お休みしている日はないのです。是非見に来ていただければと思います。この環境は本当に特殊です。時間の隙間がないのです。2次試験の出願前までに成績があればというのは、おっしゃる通りです。しかし、完全にフィックスするのに3週間ぐらいかかるわけで。どうしてもそうしたいのであれば、例えば9月入学をメインにする等しかありません。時間がないということだけはご理解いただければと思います。

**【質問 D2】**

このことについての議論はあるのでしょうか。例えば機械を増やすとか。

### 【回答 D2】

機械の台数の問題ではないのです。エラー答案の数です。エラー答案は採点しませんということが許容されるなら、3日位は短縮できるかもしれませんね。これは公約できませんが。でもそれは許されないし、やっちはいけないと思います。鼻血は仕方ないので転記します。大体 6,000 枚程エラー答案が出ます。全部目で見ます。350 万枚から 6,000 枚を抜き出すのです。この部屋には当然入らない枚数があります。その中からターゲットを見つけてきて、確かにこれは中村太郎の答案だと同定して、この子が着席しているのは欠席調査で判断して、確かにこれだと判ったら、それをデータとして入れていくわけです。朝 9 時から夜 9 時まで「紙めぐり」と通称で呼んでいます。第何会場の何番の科目の何を見つけてきて頂戴と言って、確かにこれです、分りました、という処理を 10 組以上のペアで行っております。ですから機械を増やしても。スタッフを増やしていただければ、検定料は上がりますが、3日位は早くなるかもしれません。しかし皆さんにとってユースフルな3日間ではないでしょうねという気はしますけど。とにかく 350 万枚×2は結構なボリュームです。横に並べると北京まで行くとか、縦に積むと富士山の何倍の高さになるとか。

ちなみに、印刷している紙は 400 万枚近いと思いますが、マークシートは印刷工場から直接受験会場に行くわけではありません。印刷工場から一度センターで全部空読みします。夏に行います。傷がないかどうかチェックします。通紙テストと言います。センターは 1 月・2 月だけ働いているとおっしゃる方がいらっしゃいますが、夏も通紙テストをしています。お子さんに配られる紙は白紙です。ノイズはないはず。そういうことも品質管理として行っております。350 万枚、実際は、400 万枚は結構厄介な数です。ですから入学時期をずらしていただく等の方策を考えないと、データ提供の期間の関係だけで言うと、ということになってしまいます。

### 【質問 E1】

「過去問」というのは、私達の業界では、素材文という方が新鮮なのです。皆「過去問」と言っています。私もこの前の朝日新聞を読んで、ちょっと違うのだと新たにしました。

### 【回答 E1】

これ、誰が過去問と言いだめたのでしょうかね。

### 【質問 E2】

多分、予備校かなんかではないでしょうか。

### 【回答 E2】

まあ、犯人捜しをしても仕方ないのですが、これは完全に人をあおっているとしか思えないです。まるで過去問をしておけば、センター試験が 2 点ぐらい加点されるとか、そんな

な能力払う位なら勉強せよと思うのですが。素材文ですから。これはどうしてこうなったのか本当に質問したいですね。センターの中でも何故素材文と呼ばないのかと言っています。プレス発表を見て、どこにも過去問とか過去の問題を出しますよとか言っていない。

**【質問 E3】**

そういうイメージが流れましたから、これで修正が入っていると思います。

**【回答 E3】**

いえ、このプレス発表があつて、過去問として流れて行ったわけですから、修正するためにこのプレス発表をしたわけではないのです。

**【質問 E4】**

過去問とは過去に出された問題をそのまま出すとそういうふうに皆、取っている。そんなバカなことはしないですね。素材の文は同じであっても聞き方とか変えるとそれは、過去問とは言わないのです。例えば素材文として同じ文章を使ったとしても、そのどこを取るかで、違う問題にはなりますけど、100問全部違う。そこは取り方が違う。

**【回答 E4】**

基本的に国語や英語です。素材文を再利用したい。そっくり同じ問題を出すことは有り得るわけではないと思って欲しいのですが、何故か新聞になると過去問になるのですね。高校生は不安になりますね。過去問、過去問とあおられたら。是非正しい情報をお子様にもお伝えいただければと思います。

蛇足ですが、過去問を辞書みたいに作って、ここから3割出します、残りは新作です。このようなやり方をするのも1つだと思うのです。(共通1次以前の)1期校、2期校の頃から、試験問題は沢山ございますね。この中から3割は出すことがあります、残り7割は新作です、と。そうなった時に、問題文と答えをセットにして丸暗記するための勉強をするかと、そんなことして大学に入って嬉しいのかを考えてもらえれば過去問もある意味良いと思うし、過去問も出すと公言しても良いような気がしていて、岐阜の先生とかが提案されていますね。ご存知かどうか知りませんが、過去問データベース。岐阜大学の学長さん、黒木先生だったと思いますが、そういうふうなことをおっしゃっておられます。私が言った後者の立場です。過去問を知っていれば良いのではないか、たまたま当たったら、それも勉強したのだからだ、という立場もあるのです。

ただ、センターはその立場に立っておりません。素材文は使い回すことがあります。ただ、質問の仕方は変えたりします。同じ問題が出るから過去問だけをしなさい、30年間の問題をしなさいという教育だけは、あまり日本人の能力アップにはつながらないと思います。

ちなみにもう 1 つ申し上げると、先生の方がお詳しいでしょうが、この 30 年間でカリキュラムが変遷しておりまして、共通 1 次時代の試験問題や、1 期校・2 期校の頃の試験問題を今出すと途端に叩かれます。範囲外ですね。そういう意味で過去問を使うのもすごく大変なのです。過去問と言えども、その当時、良問だったからと言ってそっくり同じ問題を出した途端に範囲外ではないかと言われるわけです。過去問が全て使えるということではございません。さっき言った試験問題辞書の中から出せない問題を外すと大分抜けるかもしれません。範囲外か範囲内かを判定できる能力を持った学生が、一々過去問を覚えるかということもありますでしょうし。

#### 【質問 F1】

試験が高校教育の目的ではないとありますが、次の目標に進むためにはやはりセンター試験は大きな目標です。「進学校」と言われる所ならセンター試験受験者を増やそうとしている。県内のある公立高校では、1 学年から学校全体でセンター試験を受けることを目標に掲げている。そこで、高卒認定試験にしようとして一部動きがあるようですが、センター試験を高卒認定試験にすることはどう思われますか。

#### 【回答 F1】

高卒認定試験にはなり得ません。大学の入学試験なので、我々は大学側に立っています。先生がおっしゃったことは、中等教育側に立った質問です。基本的に性格が違う。歩み寄れと言えば、歩み寄れる部分もありますが、今の段階は大学の入試でありまして、入学を許可する試験であります。資格試験にして欲しいと言われても、初中と高等局、別に文科省の組織を言っているのではなくて、両方で考えないといけないということになります。垣根を一旦はずして検討してみるかと言うことは、一つの議論としてはあり得ると思いますが。

ただ、危惧するのは、その試験に通らなかったら高卒ではなくなるのかということです。3 年間通学したものの新しくできた認定試験で通らなければ、3 年間が無、とは言わないまでも中卒資格になります。日本の社会としてそれが認められるのかということです。先生はそういう質問をされましたけれども、許容されるかどうかにかかっていると思います。つまり 3 年間通って、勉強していない人に卒業証書は出せない。勿論教育者としてそういう立場も良いのですが、それで社会不安をあおるようだと問題ではないでしょうか。

#### 【質問 F2】

高校卒業資格試験ではなくて、大学入試資格試験ならどうでしょう。

#### 【回答 F2】

それは 1 つの手ですね。そうすると、どこでいつ行うのか。高卒資格は持ったけど大学

に行けないという今の法科大学院と同じ状況になるのですが、もうお解りだと思いますが、やはりそれを社会としてどう許容するかです。つまり高卒ですが大学に行けない。センター試験の成績が悪かった時の子供はどうなるのでしょうかということです。浪人で済めば良いのですが。

入試は頭の痛い問題で、社会状況に影響します。何年か前に、韓国では大学に多めに入学させて、卒業生の数を絞った、アメリカのように。実際例は知りませんが、例えば2倍入れて、半分は退学させて、残れた者を卒業させたわけですよ。そうすると退学させられた方は高卒ですよ。このようなことをやると社会状況が悪くなって、結局2年だかそこらでおやめになったと聞いています。アメリカで馴染んだルールだからといって、そっくりアジアに持ってきても根付くものではない。アメリカはお金ができる時にいくらかでも大学に戻れるという所で、しかも自分に体力がなければ大学卒でなくても仕方ないという国ですね。僕の短絡的な理解ですが。通学年数に見合った資格が得られるというアジアもしくは韓国・日本のルールと、大学に入学したけれど途中でやめて、仕事してまた大学に戻るというのはあまり日本では聞かないです。いつも申し上げるのですが、社会制度と入試・大学教育はセットです。先ほどのグラフも社会の制度の中であのようになったわけですよ。私は子供の頃、イギリスは文化国ですごいなと思っていたわけですけど、進学率は低い。私の解釈では階層社会が激しい、貴族の社会ですから、つまりこの階層で生まれた子は大学に行くけれどもそれ以外の子は行けない。ドイツも徒弟制度があって、中学校を選ぶ段階でその上のコースが決まる。社会構造とセットで考えていただかないと。試験を変えたら高校の教育がバラ色になるとか、センターがなくなれば、という話はあまり現実的には不安をあおるだけで、過去問と言う用語と同じだと思います。少し言い過ぎかもしれませんが。

今日はどうもありがとうございました。